

＜ The 40th Yasuhito Mori's Scandinavian Connection ＞

Alberto Pinton Quartet

”Noi siamo”

Alberto Pinton (sax,clarinet,flute)

Niklas Barnö (tp)

Torbjörn Zetterberg (b)

Konrad Agnas (dr)

スウェーデンで活躍するベース奏者、森 泰人が1994年に発足させたスカンジナビアン・コネクションは、ラーシュ・ヤンソン、ニルス・ラングレン、ボーヒュスレーン・ビッグバンド等をはじめ多くの素晴らしい北欧の音楽を紹介し、日本のジャズ界に北欧ジャズ旋風を巻き起こした！第40回目を迎える今回は、アルベルト・ピントン率いる現代ストックホルムを代表するスーパー・エリート音楽家集団を紹介する。2010年秋以来、6年振りのスカンジナビアン・コネクションにご期待あれ！

アルベルト・ピントン Alberto Pinton

1962年、イタリアのベニス、ポルト・マルゲーラに生まれる。幼少の頃からジャズが好きでピアノやギター等、様々な楽器を演奏していたが、18歳の時に一本のテナーサックスと出会う。学校の成績も優秀で、物事を習得するのに苦労をした事が無かった彼だったが、テナーサックスは思う様に簡単に習得する事が出来無かった。逆にそれが原因となり、一挙にテナーサックスの世界にのめり込む事になった。

1985年にスウェーデンのストックホルムに移住し、1988年から1990年はバークリー音楽院に留学、卒業時には最優秀生数名のみに与えられる”Summa Cum Laude”の称号を授与された。1993年から1995年には、ニューヨークのマンハッタン音楽院に留学し、ジャズのサクソフオンでマスターを取得。スウェーデンに戻り、現在までストックホルム音大で教鞭を取り、理論やサックスを教える傍ら、ボーヒュスレーン・ビッグバンドにも在籍しあらゆる種類のサックス、フルート、クラリネット類を担当している。

サックス奏者ヨーナス・クルハンマルが主催するMoserobie Music Production、トロンボーン奏者ニルス・ラングレンの主催するRed Horn Records等からこれまで9枚の自己リーダー作を発表する傍ら数多くのアーティストの作品でもサイドマンとしてこれまで60枚以上の録音作品に参加している。

日本にはボーヒュスレーン・ビッグバンドのツアー(2008年)、ラスマス・フェイバー率いるブラチナ・ジャズ・オーケストラ(2012年)で来日している。現代のスウェーデン・ジャズシーンで、最も存在感の在る活躍を続けているのがアルベルト・ピントンである。

ニクラス・バーノ Niklas Barnö

1982年、ストックホルム生まれのスウェーデン人トランペット奏者。現代のストックホルム・ジャズシーンで最も高い人気を誇るトランペッターである。スウェーデンのアート・ブレイキ

ーと称されるフレドリック・ノレーンのグループは、数々の若手演奏者の登竜門でも在ったが、ニクラスもこのグループの出身者の一人である。

彼自身のグループ ”Je Suis”を率いる傍ら、”SNUS” ”Kege Snö”と云った人気グループでも彼の演奏を聴く事が出来る。マッツ・グスタフソンのオーケストラにも参加している。

2010年度のストックホルム・ジャズ祭で最高殊勲賞を獲得している。

トールビヨン・セッテルベリ **Torbjörn Zetterberg**

1976年にストックホルムに生まれる。

ストックホルム王立音楽院を卒業後、僅か半年後には自己のデビュー・アルバムをMoserobie Music Productionから発表。以来、高い人気を誇るベーシストである。

日本にも数回来日している。現在のスウェーデンを代表するベーシストである。Moserobie Music Productionの創始者であるサックス奏者ヨナス・クルハンマルの片腕的存在でもあり、彼の的確なベースの演奏は高く評価されている。

コンラッド・アグナス **Konrad Agnas**

1990年にストックホルム生まれのコンラッド・アグナスは、現在、スウェーデンで最も注目を浴びている若手ドラマーである。

有名なクラシックのトランペット奏者ウルバン・アグナスを父に持つ音楽一家に育つ。

Pat Metheny, Per Texas Johansson, Fredrik Ljungkvist, Nils Landgren, Jonas Kullhammar等との一連の共演でも知られる一方、ポップ歌手マヤ・ヒラサワのグループ等でも演奏している。

最近は、自己の兄弟カルテット”Agnas Bros”がスウェーデンやドイツ等の欧州諸国でも大ブレイクし、大きな人気を呼んでいる。